

鹿児島大学麻酔科専門研修プログラム

(大都市圏あるいは大学のモデルプログラム)

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

鹿児島県および宮崎県内の責任基幹施設、専門研修連携施設において研修を行い、麻酔科専門医研修カリキュラムに従い、麻酔科専門医に求められる知識と技術を習得できるプログラムである。本プログラムの特徴は、以下に列記するように自由度が高いことである。

- 1) 研修期間中に関連領域である集中治療、救急医学、ペインクリニック、緩和医療の研修が可能である。
- 2) 鹿児島県内のほとんどの麻酔症例を、本プログラム研修施設で担当するため、一般的な症例から高度な手術麻酔、緊急手術、重篤な状態の患者の麻酔など、あらゆる症例を経験できる。
- 3) 研修施設の地域性としても、鹿児島市だけでなく、川内市・鹿屋市・霧島市・宮崎県都城市などの地方都市で、麻酔科医の地域医療に果たす役割を経験することができ、さらに奄美市の県立大島病院、西之表市種子島医療センターで、離島医療を経験することが可能である。

- 4) 小児麻酔、心臓血管麻酔に関しては、国内最先端の施設である福岡市立こども病院、国立循環器病研究センターが専門研修連携施設として含まれており、専門施設における研修が可能である。
- 5) 九州大学病院、福岡大学病院、久留米大学病院、産業医科大学病院、佐賀大学病院、熊本大学病院、大分大学病院、琉球大学病院が専門研修連携施設として含まれており、各施設の特色ある専門性の高い研修を受けることが可能である。
- 6) 研修期間中に鹿児島大学大学院医歯学総合研究科に社会人特別選抜で入学し、麻酔科研修を行いながら研究を行うことも可能である。
- 7) 本プログラムの責任基幹施設である鹿児島大学病院では、女性医師支援を積極的に行っている。これまで出産・育児を行いながら麻酔科専門医を取得した女性医師は多く、女性医師のキャリア形成にも適したプログラムである。
- 8) 専門研修連携施設では医師修学資金貸与制度における義務年限内の勤務先として知事が指定する医療機関が含まれており、鹿児島大学医学部医学科の地域推薦卒医学生であった専攻医も専門医取得可能である。
- 9) 研修期間中の経済的状況に関しては、研修に問題がないように支援するよう体制を、各研修施設で整えている。

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- ① 研修期間のうち少なくとも1年目前半6ヶ月は、専門研修基幹施設で研修を行う。その間、1年目より特殊麻酔症例以外の必用経験症例を可能な限り経験する。1年目後半より小児麻酔、産科麻酔、脳神経外科手術、胸部外科手術の麻酔を経験する。ただし、地域推薦卒医学生であった専攻医は1年目より地域医療支援病院（川内市医師会立市民病院、済生会川内病院、鹿屋医療センター、出水郡医師会広域医療センター、県立大島病院、種子島医療センター）から研修を開始することができる。
- ② 2年目より心臓血管手術の麻酔を、鹿児島大学病院（専門研修基幹施設）、国立病院機構鹿児島医療センター、鹿児島市立病院、藤元総合病院のいずれかで経験する。
- ③ 3年目、4年目に、ペインクリニック、集中治療の3ヶ月間研修を必修とする。

- ④ 社会人大学院入学は、研修期間中のいずれの時点でも可能である。
- ⑤ 各専攻医の研修計画の作成に当たっては、それぞれの希望(研修施設、研修分野、勤務態勢等)を可能な限り考慮する。すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが(後述のローテーション例 A)、小児麻酔(後述のローテーション例 B)、心臓血管麻酔(後述のローテーション例 C) ペインクリニック(ローテーション例 D)、集中治療(ローテーション例 E) など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する。研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が 経験目に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、プログラム進行途中で随時確認を行い、研修計画の検討を行う。
- ⑥ 地域医療の維持のため、最低でも6ヶ月は地域医療支援病院(川内市医師会立市民病院、済生会川内病院、鹿屋医療センター、出水郡医師会広域医療センター、県立大島病院、種子島医療センター)で研修を行う。

研修実施計画例

	A 標準	B 小児	C 心臓血管	D ペイン	E 集中治療	F 地域枠
初年度 前期	鹿児島大学	鹿児島大学	鹿児島大学	鹿児島大学	鹿児島大学	大島病院 (救急・ 麻酔)
初年度 後期	市立病院	市立病院	市立病院	今給黎総 合病院	南風病院	種子島 医療セ ンター
2年度 前期	医師会病院	鹿児島医 療センタ ー(心臓 血管)	藤元総合 病院 (心臓血 管)	鹿児島医 療センタ ー(心臓 血管)	鹿児島大学 (心臓血 管)	川内済 生会病 院
2年度 後期	鹿児島大 学(心臓 血管)	鹿児島大学	大島病院 (救急・麻 酔)	鹿児島大学	鹿児島大学	鹿児島 大学 (集中 治療)
3年度 前期	川内市医 師会立市 民病院	済生会川 内病院	福岡こど も病院	鹿屋医療 センター	生協病院	鹿屋医 療セン ター

3年度 後期	鹿児島大学 (集中治療)	福岡こども病院	鹿児島大学 (麻酔・集中治療)	今村総合病院	大島病院 (救急・麻酔)	出水郡医師会 広域医療センター
4年度 前期	出水郡医師会広域 医療センター	福岡こども病院	国循センター(心臓 血管)	鹿児島大学 (ペイン)	市立病院 (集中治療)	出水郡医師会 広域医療センター
4年度 後期	鹿児島大学 (ペイン)	鹿児島大学 (集中治療・ペイン)	国循センター(心臓 血管)	鹿児島大学 (ペイン)	鹿児島大学 (集中治療)	鹿児島大学 (ペイン・心臓血管)

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

鹿児島大学病院（以下、鹿児島大学）

研修プログラム統括責任者：松永明

専門研修指導医：上村裕一（麻酔）

松永明（麻酔・心臓血管麻酔）

増田美奈（麻酔）

森山孝宏（麻酔・集中治療）

今林徹（麻酔・心臓血管麻酔）

中原真由美（麻酔・集中治療）

田代章悟（麻酔・ペインクリニック）

山田知嗣（麻酔）

岩川昌平（麻酔・小児麻酔）

原田浩輝（麻酔）

安藤美佐子（麻酔）

専門医：五代幸平（麻酔）

向原桂香（麻酔）

榎畑京（麻酔・ペインクリニック）

白桃瞳子（麻醉）

認定病院番号：56

特徴：ペインクリニック、集中治療のローテーション可能。

すべての特殊症例の経験が可能。大学院での研究も可能。

② 専門研修連携施設A

- ・鹿児島市立病院(以下, 市立病院)

研修実施責任者：濱崎順一郎

専門研修指導医：濱崎順一郎（麻醉）

上野剛（麻醉）

大納哲也（麻醉・ペインクリニック）

中野庸一郎（麻醉）

川前博和（麻醉）

吉本男也（麻醉）

岡山奈穂子（麻醉）

内田明子（麻醉）

槐島愛子（麻醉）

野田美弥子（麻醉）

藤井真樹子（麻醉）

中村千里（麻醉）

仲村将高（麻醉）

坂野正史（麻醉）

専門医：児玉健二（麻醉）

原田那津美（麻醉）

認定病院番号：403

特徴：集中治療のローテーション可、帝王切開術の症例が多い。

- ・鹿児島市医師会病院(以下, 医師会病院)

研修実施責任者：永田悦朗

専門研修指導医：永田悦朗（麻醉）

青木利奈（麻醉）

園田拓郎（麻醉・緩和ケア）

専門医：水越圭子（麻醉）

認定病院番号：350

特徴：ペインクリニックのローテーション可能

- ・国立病院機構鹿児島医療センター(以下, 鹿児島医療センター)

研修実施責任者：佐保尚三

専門研修指導医：佐保尚三 (麻酔)

米谷新 (麻酔)

砂永仁子 (麻酔)

肥後友紀 (麻酔)

内田陽治 (麻酔)

認定病院番号：265

特徴：心臓血管手術の麻酔が多い

- ・公益社団法人鹿児島共済会 南風病院(以下, 南風病院)

研修実施責任者：松田芳隆

専門研修指導医：松田芳隆 (麻酔)

國吉保 (麻酔)

益山隆志 (麻酔・ペインクリニック)

加藤博美 (麻酔)

石塚香名子 (麻酔)

専門医：入江良彦 (麻酔)

認定病院番号：783

特徴：ペインクリニックのローテーションが可能。

- ・公益財団法人昭和会 いまきいれ総合病院 (旧：今給黎総合病院)

以下, 今給黎総合病院

研修実施責任者：池田耕自 (麻酔)

専門研修指導医：池田耕自 (麻酔)

大瀬克広 (麻酔・緩和ケア)

山下順正 (麻酔)

西山淳 (麻酔)

今給黎南香 (麻酔)

西村絵美 (麻酔・ペインクリニック)

専門医：上川路智美 (麻酔)

認定病院番号：562

特徴：心臓外科手術以外の特殊症例の経験が可能。

- ・公益財団法人慈愛会 今村総合病院(以下, 今村総合病院)

研修実施責任者：東美木子

専門研修指導医：東美木子（麻酔・ペインクリニック）

下野裕生（麻酔）

川崎孝一（麻酔）

鈴木有希（麻酔）

認定病院番号：1496

特徴：ペインクリニックのローテーションが可能。

- ・鹿児島県立大島病院(以下, 大島病院)

研修実施責任者：大木浩

専門研修指導医：大木浩（麻酔・ペインクリニック）

認定病院番号：320

特徴：地域医療が経験できる。帝王切開術の症例が多い。

- ・藤元総合病院(以下, 藤元総合病院)

研修実施責任者：尾野本真徳

専門研修指導医：尾野本真徳（麻酔）

東良子（麻酔）

専門医：梶智彦（麻酔）

認定病院番号：1146

特徴：心臓血管外科手術、脳神経外科手術の症例が多い。

- ・川内市医師会立市民病院(以下, 川内市医師会立市民病院)

研修実施責任者：新村正蔵

専門研修指導医：新村正蔵（麻酔）

竹山正治（麻酔）

認定病院番号：1117

特徴：地域医療の経験ができる。

- ・県民健康プラザ鹿屋医療センター(以下, 鹿屋医療センター)

研修実施責任者：高橋佳子

専門研修指導医：高橋佳子（麻酔）

原口哲子（麻酔）

認定病院番号：797

特徴：帝王切開術の症例が多い。地域医療の経験ができる。

- ・ 済生会川内病院(以下, 済生会川内病院)

研修実施責任者：日高帯刀

専門研修指導医：日高帯刀（麻醉）

 専門医：原園登紀子（麻醉）

認定病院番号：911

特徴：帝王切開術の症例が多い。地域医療の経験ができる。

- ・ 出水郡医師会広域医療センター(以下, 出水郡医師会広域医療センター)

研修実施責任者：松林理

専門研修指導医：松林理（麻醉）

認定病院番号：578

特徴：地域医療の経験ができる。

- ・ 鹿児島生協病院(以下, 生協病院)

研修実施責任者：橋元高博

専門研修指導医：橋元高博（麻醉）

 佐々木達郎（麻醉）

 川越憲治（麻醉）

認定病院番号：777

特徴：小児の症例が多い。

- ・ 地方独立行政法人福岡市立病院機構 福岡市立こども病院(以下,福岡市立こども病院)

研修実施責任者：水野圭一郎

専門研修指導医：水野 圭一郎（麻醉）

 泉 薫 （麻醉）

 住吉 理絵子（麻醉）

 自見 宣郎 （麻醉）

 専門医：賀来 真里子（麻醉）

 石川 真理子（麻醉）

認定病院番号：205

特徴：サブスペシャリティとしての小児麻酔を月30～50例のペースで集中的に経験できる。新生児を含む小児全般の気道・呼吸管理の実践的な研修が可能。外科・整形外科・泌尿器科の手術では硬膜外麻酔・神経ブロックを積極的に用いている。急性痛管理にも力を入れており、硬膜外鎮痛やPCAなどを行っている。先天性心疾患の手術件数・成績は国内トップレベルを誇り、研修の進達度に応じて複雑心奇形の根治手術・姑息手術の麻酔管理の担当も考慮する。

- ・国立循環器病研究センター(以下, 国立循環器病研究センター)

研修実施責任者：大西佳彦

専門研修指導医：大西佳彦（麻醉）

吉谷建司（麻醉）

金澤裕子（麻醉）

南公人（麻醉）

前田琢磨（麻醉）

認定病院番号：168

特徴：国内の心臓血管手術の中心であり、最先端の心臓血管手術の麻醉の研修ができる。

- ・霧島市立医師会医療センター（以下, 霧島医療センター）

研修実施責任者：村山裕美

専門研修指導医：村山裕美（麻醉）

認定病院番号：1916

特徴：地域医療の中核病院として外科、整形外科症例が多く、救急患者や重症患者症例の研修もできる。

- ・産業医科大学病院

研修実施責任者：川崎 貴士（麻醉, ペインクリニック）

専門研修指導医：古賀 和徳（麻醉, ペインクリニック）

原 幸治（麻醉, ペインクリニック）

堀下 貴文（麻醉）

岡田 久乃（麻醉）

林 哲也（麻醉）

福井 遼（麻醉）

丸岡 司（麻醉）

蒲地 正幸（麻醉, 集中治療）

内田 貴之（麻醉, 集中治療）

専門医：秋山 沙織（麻醉）

認定病院番号：184

特徴：産業医科大学病院は、北九州唯一の特定機能病院として高度医療を提供し続けており、地域がん診療連携拠点病院としても地域において重要な役割を担っている。また、手術症例は多岐にわたっており、ほぼ全ての外科系手術の麻醉管理の研修が可能であり、特殊疾患患者の手術も多いため、質の高い教育を提供することができる。

・九州労災病院

研修実施責任者：竹中 伊知郎

専門研修指導医：椿 隆行（麻醉）

竹中 伊知郎（麻醉）

専門医：南 智子（麻醉）

認定病院番号：425

特徴：整形外科主体の総合病院

・神戸労災病院

研修実施責任者：入江 潤

専門研修指導医：入江 潤（麻醉）

伊福 弥生（麻醉）

貴志 暢之（麻醉）

河野 泰大（麻醉）

専門医：木田 健太郎（麻醉）

認定病院番号：143

特徴：頸椎手術が多く、様々な気道確保症例を経験できる。ペインクリニックの研修も可能である。

・北九州総合病院

研修実施責任者：青山 和義

専門研修指導医：青山 和義（麻醉）

竹田 貴雄（麻醉）

西村 昌泰（麻醉）

永田 健充（麻醉）

大辻 真理（麻醉，救急）

専門医：野上 裕子（麻醉）

佐藤 珠美（麻醉）

認定病院番号：447

特徴：当院は救命救急センターを有し、各科の緊急手術症例が豊富である。

・地域医療機能推進機構九州病院

研修実施責任者：村島 浩二

専門研修指導医：村島 浩二（麻醉）

芳野 博臣（麻醉）

今井 敬子 (麻酔)
水山 有紀 (麻酔, 集中治療)
松本 恵美 (麻酔)

認定病院番号 : 257

特徴 : 当院は, 新生児・周産期・心臓外科 (小児・成人・カテーテル治療) の症例が豊富である.

・琉球大学医学部附属病院

研修実施責任者 : 垣花 学

専門研修指導医 : 垣花 学 (麻酔)

中村清哉 (麻酔, ペインクリニック・緩和)
淵上竜也 (麻酔, 集中治療)
大城匡勝 (麻酔)
照屋孝二 (麻酔, 集中治療)
野口信弘 (麻酔)
神里興太 (麻酔, 集中治療)
安部真教 (麻酔, ペインクリニック, 緩和)
和泉俊輔 (麻酔)
大久保 潤一 (麻酔, ペインクリニック, 緩和)
宜野座 到 (麻酔)
久保田 陽秋 (麻酔)
仲嶺洋介 (麻酔)
赤嶺 斉 (麻酔)
専門医 : 新垣 かおる (麻酔)
波平紗織 (麻酔)
渡邊洋平 (麻酔)
林 美鈴 (麻酔)
金城 健大 (麻酔)

認定病院番号 : 94

特徴 : 先進的な幅広い症例が経験でき、指導体制も充実している。集中治療、ペインクリニックを含む集学的な周術期管理を学べる.

・那覇市立病院

研修実施責任者 : 宮田裕史

専門研修指導医 : 宮田裕史 (麻酔)

比嘉達也 (麻酔、ペイン)

富山 洋 (麻醉)
福元千尋 (麻醉)

認定病院番号：504

特徴：集中治療のローテーション可能

- ・大分大学医学部附属病院（以下，大分大学本院）

研修実施責任者：北野敬明

専門研修指導医：北野敬明 (麻醉)

松本重清 (麻醉，集中治療)

新宮千尋 (麻醉)

奥田健太郎 (麻醉，ペインクリニック)

後藤孝治 (麻醉，集中治療)

日高正剛 (麻醉，集中治療)

内野哲哉 (麻醉)

安田則久 (麻醉，集中治療)

古賀寛教 (麻醉，集中治療)

山本俊介 (麻醉，集中治療)

安部隆国 (麻醉，集中治療)

椎原啓輔 (麻醉)

大地嘉史 (麻醉，集中治療)

甲斐真也 (麻醉)

中野孝美 (麻醉)

専門医：牧野剛典 (麻醉，集中治療)

佐々木美圭 (麻醉)

小坂麻里子 (麻醉)

認定病院番号：237

特徴：ペインクリニック，集中治療のローテーション可能。希望者は緩和ケアチームへの参加可能。

- ・大分県立病院（以下，県立病院）

研修実施責任者：宇野太啓

専門研修指導医：宇野太啓 (麻醉，集中治療)

油布克巳 (麻醉)

木田景子 (麻醉)

専門医：西田太一 (麻醉)

認定病院番号：289

特徴：集中治療のローテーション可能。小児麻酔症例が豊富。

・九州大学病院

研修実施責任者：山浦 健（麻酔）

専門研修指導医：山浦 健（麻酔）

辛島 裕士（麻酔）

瀬戸口 秀一（麻酔、集中治療）

神田橋 忠（麻酔）

徳田 賢太郎（麻酔、集中治療、救急）

牧 盾（麻酔、集中治療、救急）

藤吉 哲宏（麻酔、集中治療、救急）

前田 愛子（麻酔、ペインクリニック）

白水 和宏（麻酔、集中治療、救急）

住江 誠（麻酔）

専門医：中山 徹三（麻酔）

中山 昌子（麻酔）

福德 花菜（麻酔、緩和ケア）

梅原 薫（麻酔）

杉部 清佳（麻酔）

加治 淳子（麻酔）

松下 克之（麻酔）

阿部 潔和（麻酔）

中垣 俊明（麻酔）

福留 拓哉（麻酔）

藤田 愛（麻酔）

認定病院番号：8

特徴：九州大学病院は、全国でも最大規模の手術症例数を持っている。特に移植手術（心臓・肝臓・腎臓・膵臓等）や特殊な心臓手術（先天性心疾患、経カテーテル的大動脈弁置換術）、ロボット手術等の症例数も多く、高度で専門的な麻酔の研修を行うことができる。また、集中治療・救急医療・ペインクリニック・緩和ケアなど、関連分野での幅広い研修を行うことができる。

・国立病院機構 九州医療センター（以下、九州医療センター）

専門研修指導医：甲斐 哲也（麻酔）

虫本 新恵（麻酔）

吉野 裕子 (麻醉)
牧園 玲子 (麻醉)
東 晶子 (麻醉)
小野 悦子 (麻醉)
専門医: 富永 昌周 (麻醉)
新原 妙子 (麻醉)
池田 麻美 (麻醉)

認定病院番号: 697

特徴: 外科系の全診療科を有し、麻醉科専門医に求められる全ての領域の麻醉を経験することができる。全身麻醉は全静脈麻醉を主体とし、速やかで質の高い覚醒と術後嘔気の少ない良質な麻醉を目指しており、全静脈麻醉を多数経験することができる。術後鎮痛に配慮してエコーガイド下末梢神経ブロックを積極的に施行しており、対象症例も多いため、神経ブロックも多く経験することができる。術後ivPCAを施行する患者も多く、そのコントロールへの関与も可能である。

・社会福祉法人恩賜財団済生会 福岡県済生会福岡総合病院 (以下、済生会福岡病院)

専門研修指導医: 吉村 速 (麻醉)
倉富 忍 (麻醉)
田口 祥子 (麻醉)
八田 万里子 (麻醉)
梅原 真澄 (麻醉)
専門医: 牛尾 春香 (麻醉)

認定病院番号: 1043

特徴: 福岡市の中心地の天神に位置する 380 床の中規模都市型急性期総合病院である。第3次救急救命センターを有することから、緊急症例が多く全手術件数の20%以上が緊急手術で、365日24時間、心臓外科・外科・脳外科・多発外傷等の緊急手術に対応している。また、ICU/CCUがあることから、循環器などの重度合併症を有する患者の手術が多く施行されている。さらに、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、福岡県災害拠点病院に指定されており、地域の医療の一翼を担っている。

・佐賀大学医学部附属病院 (以下、大学病院)

研修実施責任者: 坂口 嘉郎
専門研修指導医: 坂口 嘉郎 (麻醉, 集中治療)
平川 奈緒美 (麻醉, ペインクリニック)
高松 千洋 (麻醉)
上村 聡子 (緩和ケア, ペインクリニック)

谷川 義則（麻醉，集中治療）

田中 学（麻醉）

中川内 章（麻醉，集中治療）

中村 公秀（麻醉，集中治療）

山田 康貴（麻醉）

高口 由希恵（麻醉）

専門医：塚本 絵里（麻醉）

山下 友子（集中治療）

認定病院番号 238

特徴：大学病院であり，重症症例を含む幅広い手術麻醉の経験ができ，専門研修指導医が充実している．ペインクリニック，集中治療のローテーションも可能である．

・地方独立行政法人 佐賀県医療センター好生館（以下，好生館）

研修実施責任者：三浦 大介

専門研修指導医：三浦 大介（麻醉，心臓血管麻醉）

小杉 寿文（緩和ケア，ペインクリニック）

三溝 慎次（集中治療）

石川 亜佐子（麻醉，ペインクリニック）

富田 由紀子（麻醉）

諸隈 明子（麻醉）

久我 公美子（麻醉）

田代 直規（麻醉）

古賀 美佳（集中治療）

専門医：久保 麻悠子（緩和ケア）

認定病院番号 393

特徴：地域中核病院であり，幅広い手術麻醉の経験ができ，手術件数が多いため豊富な麻醉経験ができる．小児外科があり，小児麻醉の経験が多くできる．緩和ケア病棟を併設しているため，緩和ケアの研修が充実している．

・独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター（以下，嬉野医療センター）

研修実施責任者：香月 亮

専門研修指導医：香月 亮（麻醉，心臓血管麻醉，ペインクリニック，緩和ケア）

杉山 馨祐（麻醉，緩和ケア）

山口 奈央子（麻醉，緩和ケア）

専門医：北村 静香（麻醉，緩和ケア）

認定病院番号 918

特徴：地域中核病院であり，幅広い手術麻酔の経験ができる．緊急手術，心臓血管外科手術の豊富な麻酔経験ができる．緩和ケアの研修も可能である．

・福岡大学病院

研修プログラム統括責任者：秋吉 浩三郎

専門研修指導医：秋吉 浩三郎（麻酔）

東 みどり子（麻酔）

重松 研二（麻酔、集中治療）

柴田 志保（麻酔、ペインクリニック）

岩下 耕平（麻酔、集中治療）

原賀 勇壮（麻酔、緩和ケア）

中森 絵里砂（麻酔）

佐藤 聖子（麻酔）

富永 健二（麻酔）

大脇 涼子（麻酔）

三股 亮介（麻酔）

外山 恵美子（麻酔、ペインクリニック）

専門医：千々岩 絵里子（麻酔）

熊野 仁美（麻酔）

富永 将三（麻酔）

認定病院番号：92

特徴：年間手術症例数は8,300例余り、そのうち約7,000症例を麻酔科が管理しています。脳死および生体肺移植術があること、心大血管手術や外傷手術が多いため、緊急手術の割合が高いのが特徴です。症例数が豊富であり、麻酔科専門研修プログラムに必要な症例はすべて経験することができます。麻酔管理では、超音波ガイド下の末梢神経ブロックを積極的に行っており、術後の疼痛管理にも積極的に取り組んでいます。また、周術期管理センターを開設しており、周術期管理チームとして看護師・薬剤師・歯科衛生士・栄養士と連携し、全身状態の評価を入院前から行っています。外科系集中治療室は麻酔科医が主体となって運営されており、術後の全身管理を学ぶことが可能です。また、ペインクリニックでの急性痛・慢性痛に対する薬物療法や神経ブロック、緩和ケアの研修も行なっています。その他、神経ブロックを始めとする各種講習会や研修会を定期的を開催しており、様々な資格・認定を取得することも可能です。

・日本赤十字社 福岡赤十字病院

研修実施責任者：生野慎二郎

専門研修指導医：生野慎二郎（麻酔）

: 江口 明 (麻酔)

: 迎 雅彦 (麻酔)

: 楠本 剛 (麻酔)

: 野口 紗織 (麻酔)

認定病院番号 243

特徴：帝王切開術、心臓血管手術、胸部外科手術、脳神経外科手術の症例数は週に1例以上あり、帝王切開術は特に多い。全身麻酔を基本に、硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、神経ブロックを併用した麻酔管理を行っている。近年は麻酔困難症例に対して超音波ガイド下の神経ブロックを積極的に行っている。腎センターが併設されており、透析患者の麻酔管理も多い。

・福岡大学筑紫病院（以下、筑紫病院）

研修実施責任者：若崎 るみ枝

専門研修指導医：若崎 るみ枝 (麻酔)

: 都 有花 (麻酔)

: 中原 春奈 (麻酔)

認定病院番号 398

特徴：

- ① 炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）の症例数が全国的にも多く、大腸全摘や肛門周囲膿瘍切開排膿術など、疾患に関連した手術が多い。
- ② 肩関節手術症例数が多く、持続腕神経叢ブロックを行う症例が豊富。
- ③ 一般外科は食道、膵臓、肝臓など開腹手術と結腸、胆嚢、鼠径ヘルニア手術などの腹腔鏡手術が共に多く、どちらの麻酔も学ぶことができる。
- ④ 希望者は緩和ケアチームへの参加可能。

・久留米大学病院

研修実施責任者：平木照之

専門研修指導医：山田信一（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

: 原将人（麻酔、心臓血管麻酔）

: 中川景子（麻酔）

: 津田勝哉（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

: 平田麻衣子（麻酔）

: 西尾由美子（麻酔）

専門医：横溝泰司（麻酔、ペインクリニック、緩和医療）

: 小佐々優子（麻酔、心臓血管麻酔）

: 亀山直光（麻酔）

：横溝美智子（麻醉）

：木村寛子（麻醉）

認定病院番号：41

特徴：手術麻酔だけでなく、ペインクリニック・緩和ケア病棟での研修を行うことができる。また希望により外科系集中治療部（SICU）、救急医療（高度救命救急センター）での研修も行うことができる。

手術麻酔については心臓大血管手術、開頭術、分離肺換気を必要とする開胸術など多数の手術を行っており、重篤な合併症を抱えた患者の麻酔管理も多い。ペインクリニックでは慢性疼痛、急性痛、癌性疼痛の投薬治療や神経ブロック療法を経験することができる。また脊椎疾患や多汗症の手術治療や癌性疼痛、難治性疼痛に対する永久ブロックやSCSによる治療などを経験することができる。緩和医療では終末期がん患者の疼痛管理や苦痛に対する治療を経験できる。看取り期に必要な医療の提供の方法を学ぶことができる。

・久留米大学医療センター

研修実施責任者：濱田伸哉

専門研修指導医：濱田伸哉（麻酔）

認定病院番号：1451

特徴：クリニカルパスを含めた、手術麻酔のマネージメントを経験できる。また整形外科疾患におけるエコーガイド下末梢神経ブロックを集中的に経験することができる。

・大牟田市立病院

研修実施責任者：山田阿貴子

専門研修指導医：伊藤貴彦（麻酔、救急医療）

専門医：山田阿貴子（麻酔）

認定病院番号：386

特徴：地域医療支援病院、がん診療拠点病院、災害拠点病院。小児麻酔や産科麻酔、脳神経外科や胸部外科の症例が豊富で緊急手術も多い。災害拠点病院でもあり、救急医療にも力を入れている。

・熊本大学医学部附属病院（以下、熊本大学病院）

研修実施責任者：山本達郎

専門研修指導医：山本達郎（麻酔，ペインクリニック）

杉田道子（麻酔，ペインクリニック）

田代雅文（麻酔，ペインクリニック）

生田義浩（麻醉）
鷺島克之（麻醉、集中治療）
成松紀子（麻醉、集中治療）
洲崎祥子（麻醉、ペインクリニック、緩和医療）
江嶋正志（麻醉、集中治療）
隈元泰輔（麻醉）
小松修治（麻醉）
野中崇広（麻醉）
専門医：石村達広（麻醉）
小林加織（麻醉）
磯部直史（麻醉）
矢津田麻里（麻醉）
林田裕美（麻醉）
梶原那美恵（麻醉）
徳永祐希子（麻醉）
柚留木朋子（麻醉）
平岡知江子（麻醉）
井上由季子（麻醉）
吉田拓二（麻醉）
山田美咲（麻醉）
林正清（麻醉）
鳥崎哲平（麻醉）

認定病院番号：34

特徴：ペイン，集中治療のローテーション可能

・熊本赤十字病院

研修実施責任者：定永道明

専門研修指導医：定永道明（麻醉、ペインクリニック）

佐土原友弘（麻醉）

古閑 匡（麻醉）

井上克一（麻醉）

大塚尚実（麻醉、救急）

専門医：棚平 大（麻醉）

大塚賀子（麻醉）

樋口直子（麻醉）

竹永真由（麻醉）

認定病院番号：166

特徴：地域拠点病院

- ・ 済生会熊本病院（以下，済生会病院）

研修実施責任者：原武義和

専門研修指導医：原武義和（麻酔）

國徳裕二（麻酔）

坂田羊一朗（麻酔）

加藤清彦（麻酔）

藤田ミキ（麻酔）

中原依里子（麻酔）

菊池忠（集中治療）

専門医：中野信彦（麻酔）

認定病院番号：469

特徴：地域医療支援病院の認定を受けた急性期病院として救急や高度医療を地域住民に提供しています。特に地域の中で心疾患、脳疾患の救急患者を多く引き受けています。近年はロボット支援下手術やハイブリッド手術室での低侵襲治療に積極的に取り組んでいます。

③ 専門研修連携施設B

- ・ 社会医療法人義順顕彰会 種子島医療センター(以下,種子島医療センター)

研修実施責任者：高山千史

専門研修指導医：高山千史（麻酔）

認定病院番号：1212

特徴：地域医療の経験が可能である。

- ・ 鹿児島厚生連病院(以下,厚生連病院)

研修実施責任者：白石良久（麻酔）

専門研修指導医：白石良久（麻酔）

宮脇武徳（麻酔）

黒木千晴（麻酔）

認定病院番号：1110

特徴：胸部外科手術の症例が多い。

- ・ 鹿児島赤十字病院(以下,赤十字病院)

研修実施責任者：川上雅之
専門研修指導医：川上雅之（麻醉）
原口正光（麻醉）

認定病院番号：1152

特徴：地域医療の経験ができる。

- ・ 小林市立病院(以下,小林市立病院)
研修実施責任者：窪田悦二
専門研修指導医：窪田悦二（麻醉）
認定病院番号：1487
特徴：地域医療の経験ができる。

- ・ 熊本労災病院（以下，労災病院）
研修実施責任者：橋本正博
専門研修指導医：橋本正博（麻醉）
専門医：小野田昌弘（麻醉）
山部典久（麻醉）
認定病院番号：130
特徴：地域医療拠点病院

- ・ 熊本中央病院
研修実施責任者：前川 謙悟
専門研修指導医：前川 謙悟（麻醉）
棚平千代子（麻醉）
専門医：大吉貴文（麻醉）
中嶋 健（麻醉）
認定病院番号：192
特徴：循環器疾患（開心術、TAVI など血管内治療）や呼吸器外科（がん診療）の麻醉管理を中心に指導医のもとで数多く経験できます。

- ・ 国立病院機構熊本医療センター（以下，熊本医療センター）
研修実施責任者：瀧 賢一郎
専門研修指導医：瀧 賢一郎（麻醉）
古庄千代（麻醉）
鹿児島直樹（麻醉）
認定病院番号：267

特徴：地域拠点病院

・沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

研修実施責任者：川端徹也（麻酔）

専門研修指導医：川端徹也（麻酔，小児麻酔）

比嘉久栄（麻酔，心臓血管麻酔）

兼城真帆（麻酔）

専門医：野中信一郎（麻酔，区域麻酔）

橋爪勇介（麻酔，緩和ケア）

桃原志穂（麻酔，小児麻酔）

認定病院番号：409

特徴：一般・こども病院併設型施設にて新生児から高齢者まで幅広い年齢層の症例が在る。開心術も新生児から超高齢者で行われている。

・筑後市立病院

研修実施責任者：古賀由香利

専門研修指導医：古賀由香利（麻酔）

認定病院番号：0900

特徴：災害拠点病院。鏡視下手術の麻酔や手術室外での麻酔を経験できる

・雪の聖母会 聖マリア病院（以下、聖マリア病院）

専門研修指導医：吉野 淳（麻酔）

藤村 直幸（麻酔、集中治療、救急、ペインクリニック）

信國 桂子（麻酔）

坂井 寿理亜（麻酔）

新井 千晶（麻酔）

専門医：甘蔗 真純（麻酔）

認定病院番号：483

特徴：全病床数1295床、年間救急患者6万人、救急車搬送台数9000台と筑後地区の3次救急医療体制を支えている。基本理念は「カトリックの愛の精神による保健、医療、福祉、および教育の実践」。「24時間365日すべての患者さんを断わらない」をモットーに救急医療を展開、現在では一次から三次まで、産科・新生児・小児救急から脳神経・心臓疾患、交通外傷まであらゆる分野の救急を引き受けることのできる病院である。診療科は多岐にわたり、新生児から高齢者まで、様々な症例の麻酔経験が可能である。また、手術症例の約20%（1100例）が緊急手術であり、緊急手術の麻酔経験も積むことが可能である。

5. 募集定員

12名

(*募集定員は、4年間の経験必要症例数が賄える人数とする。複数のプログラムに入っている施設は、各々のプログラムに症例数を重複計上しない)

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに(2019年9月ごろを予定)志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、鹿児島大学病院麻酔科専門研修プログラム website, 電話, e-mail, 郵送のいずれの方法でも可能である。

鹿児島大学病院麻酔科 科長 松永 明

鹿児島県 鹿児島市 桜ヶ丘8-35-1

TEL 099-275-5430

E-mail matunaga@m3.kufm.kagoshima-u.ac.jp

Website <https://www3.kufm.kagoshima-u.ac.jp/ana-ccm/>

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果(アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティ領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習，2) 臨床現場を離れた学習，3) 自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導のもと，安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる。

また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修 4 年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らない

ように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての川内市医師会市民病院、済生会川内病院、鹿屋医療センター、出水郡医師会広域医療センター、霧島市立医師会医療センター、県立大島病院、種子島医療センターなど幅広い連携施設が入

っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

15. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。